

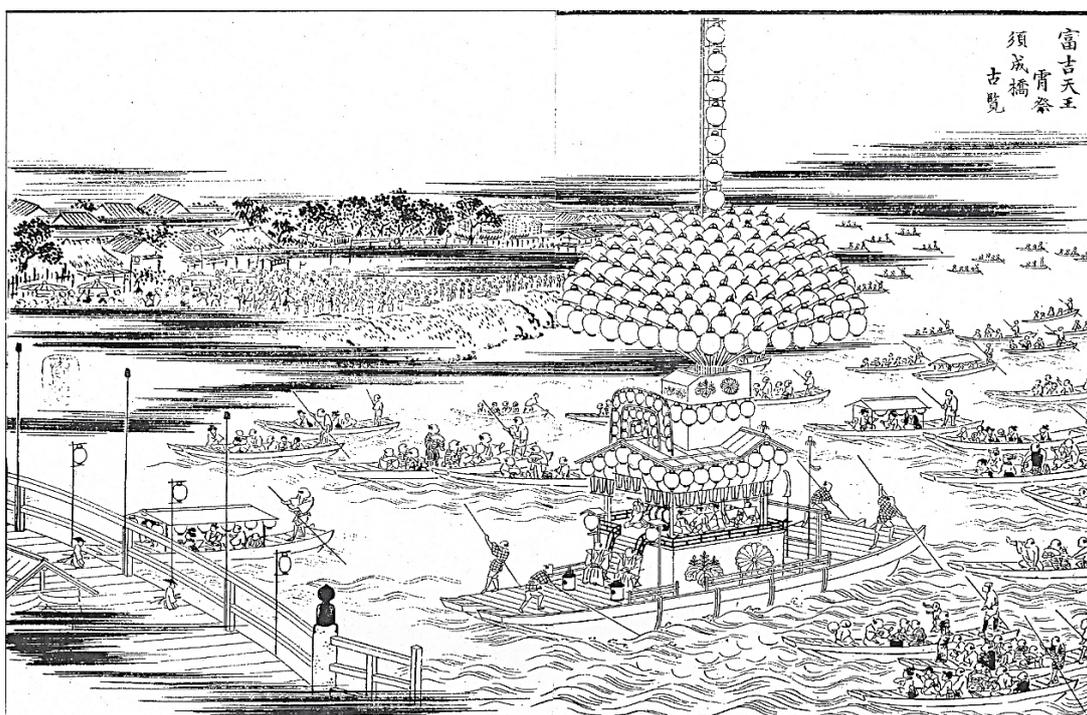
# 蟹江町歴史民俗資料館 おうちミュージアム 須成祭について学ぼう！

## 答え



この写真は、ユネスコ無形文化遺産(むけいぶんかいさん)にもなっている「須成祭(すなひまつり)」の宵祭(よひまつり)の写真です。須成祭は、蟹江町の須成地区で毎年8月はじめに川に船を浮かべて行われる川祭りです。写真や昔の絵などを見て須成祭について学んでみましょう。

(1) 次の絵は、今から約200年前に描かれた須成祭の宵祭の様子です。



① 写真を参考に色をぬってみよう。

**上手にぬることができたかな？**

② 色をぬいながら、今と昔とどこがちがうか、また、変わっていないところはどんなところが考えてみよう。

この絵は、今からおよそ200年前の江戸時代に描かれた「尾張名所図会(おわりめいしよずえ)」という本のふろくにのせられていた絵です。昔の愛知県は「尾張(おわり)」と言われており、愛知県のいろいろな名所を紹介している中で、須成祭も取り上げています。

屋根の形が少しちがうところもありますが、ちょうちんでかざられた船のようすは、200年たってもほとんど変わっていませんね。

200年前の絵には、祭船のまわりにはたくさんの小さな船があります。昔は、船で祭りを見物する人がたくさんいたそうです。

今は川岸に祭りを見る人がたくさんいますね。昔の絵は、川の幅がとても広く見えますが、これは絵をかくときに大げさに表現されたものかも知れません。

このほかにいろいろ同じところや、違っているところがあると思います。友達同士で話し合ってみると、もっといろいろな発見があるかもしれません。

③ 船の前から後ろまでの大きさは、どれくらいあるのでしょうか

**答え：ウ 15メートル**

須成祭では、前から後ろまでがおよそ15メートル、横の長さが2メートル60センチもある船を横に2つならべ、その上に舞台や飾りがのせられます。ちなみに宵祭の船では、柱のちょうちんのとっぺんまでの高さが19メートルにもなります。

④ 船の一番上の柱についている提灯(ちょうちん)は12個あります。何をあらわしているのでしょうか。次の中からえらんでください。

**答え：イ 12ヵ月**

たくさんのちょうちんには意味があります。柱のものは1年の月の数、半球のものは1年の日にちの数、半球の下にある赤く小さいものは1ヶ月の日にちの数をあらわしています。

ちなみに、うるう年(2月29日のある年)のときは柱の提灯の数は13個になります。

柱の12個のちょうちんは、その明かりがついているか消えてしまうかで、それぞれの月の作物のできが良いかを占う、ともいう人もあります。

(2)この写真は、須成祭の「朝祭(あさまつり)」の様子です。



須成祭では、8月最初の土曜日に行われる「宵祭」の次の日(日曜日)の朝に「朝祭」がおこなわれます。

朝祭の船では、ちょうちんをとりはずして、人形や紙でつくった花でかざられています。宵祭と朝祭の船のかざりはずいぶん違いますが、じつは、たった一晩で船のかざりつけをかえているのです。また、朝祭の船では、舞台の上に役者の人たちがすわっている様子がよく見えますね。

① 船にはどれくらいの人がかのっているでしょうか。次からえらんでください。

答え：イ およそ50人

須成祭で船にのる人たちには、それぞれ役があります。

船の舞台の階段の下で、丸いかぶりものをつけてすわる2人は、祭りをとりしきる役の「祭総代(まつりそうだい)」といいます。白いはっぴを着て長いサオをもった人は、船をあやつる船頭(せんどう)で、前と後ろであわせて4人います。

舞台の中には、須成祭の主役となる子どもたち6人が「稚児(ちご)」としてのっています。6人の稚児のうち、4人は太鼓などの楽器を演奏します。稚児たちには、それぞれ「親役(おややく)」がつきそいます。さらに笛を吹く役の人が1~3人、祭総代といっしょに祭りをとりしきる「宿大将(やどだいしょう)」が1人、船のせきにん者の「車大将(くるまだいしょう)」が2人います。

舞台のまわりにも稚児たちにつきそう人たちがいたり、屋根の上にもる人たちもいます。

これらの人たちを全てあわせると、およそ50人になります。

(1)で紹介した200年前に描かれた絵をみても、船にのっている人たちの様子は昔からそれほど変わっていないことが分かりますね。

② 朝祭の船の上にある人形には、どのような意味があるでしょうか。次からえらんでください。

答え：ア お祭りに関わる神様

船の上の人形は、男と女の神様です。男の神様は「いざなぎのみこと」、女の神様は「いざなみのみこと」といいます。この2人の神様は、日本をつくった神様だといわれています。また、上の段が女の神様で、下の段が男の神様です。よく見ると男の神様にはヒゲがありますね。



(3)これは、朝祭の次の日の朝に行われる「神葎流し(みよしながし)」という行事の写真で、水辺に生えるヨシという草で作った「みよし」を川へ流しています。



① なんのために「みよし」を川へ流すのでしょうか。次の中からえらんでください。

答え：ウ 病気などの悪いものを「みよし」といっしょに川へ流して消すため

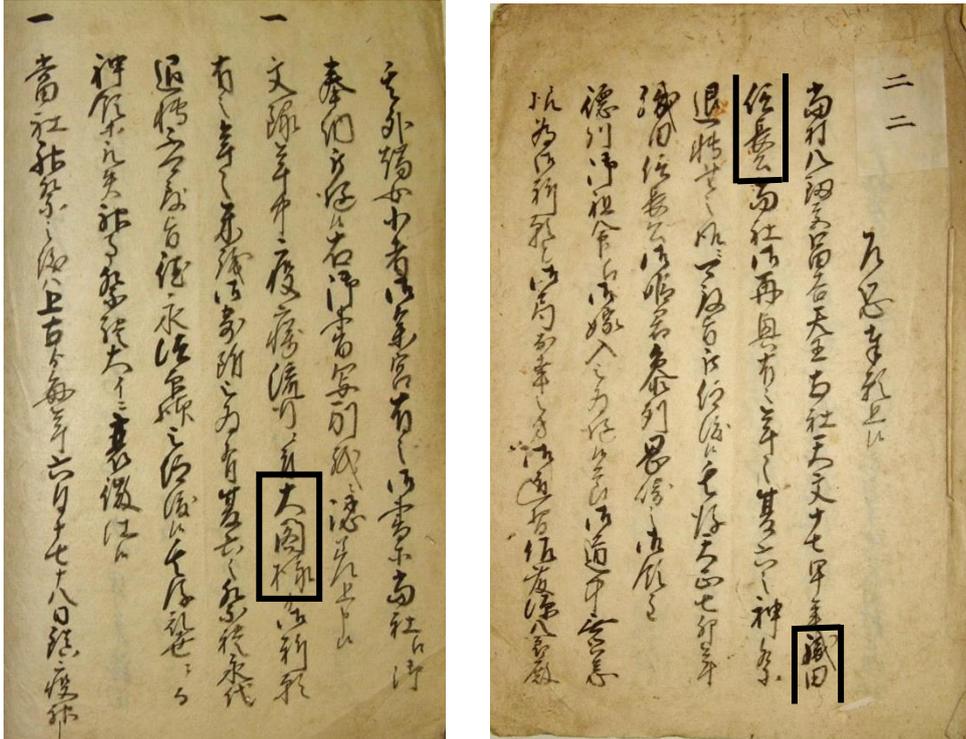
昔は今よりも病気がはやるが多かったそうです。そこで、船祭りのあとに、「みよし」に病気などの悪いものをたくして流す「みよし流し」を行い、病気などが消えてしまうように神様へお願いをしたのです。

#### (4) 須成祭の歴史について

須成祭がいつから始まったのかは、はっきりしたことは分かりませんが、おそらく400年以上も昔から続けられてきたといわれています。昔からのお祭りが今日まで続いているなんて、とてもすごいことですね。

- ① 長い歴史がある須成祭には、歴史上で活躍した人たちが関わっていると伝えられています。下の写真をヒントに、次の中から 2人 えらんでください。

答え： A 織田信長、ウ 豊臣秀吉



これは、須成祭が行われる富吉建速神社・八剱社に伝わる文書です。今から200年以上も昔の江戸時代に、神社や須成祭の歴史について書かれています。

右の口には「織田信長公」(読みやすい「田」の字がヒントです)、左の口には「太閤様」(豊臣秀吉は太閤といわれることもありましたが)と書かれています。2人とも、愛知県で生まれて活躍した人たちですね。

残念ながら、2人が生きていた時に書かれたものは残っていませんが、須成祭ではこのように書かれたものが伝えられています。

- ② ①の人たちは須成祭をどのように行うべきかについて、発言を残したと伝えられています。次の中からえらんでください。

答え： A 手をぬかずに、のちのちまできちんとおこなうのじゃ。

2人とも、須成祭を「きちんとやるように」と言い残したと伝えられています。そのおかげかどうかは分かりませんが、400年以上も続いているとされる須成祭。これからも未来の人たちまで伝えていきたいですね。